

特定非営利活動法人

港南たすけあい心

No.77

2025
3.15

発行責任者 宮古 縁 横浜市港南区野庭町 610-2-202 TEL 045-844-6858 FAX 045-844-6857



目次

これからのたすけあい心	2
久しぶりのプレミアム定例会開催	3
R 6 年度の研修報告	4
新人会員紹介 / コラム	5
ご利用者さま作品紹介 / コラム	6・7
活動状況 / 乙女心 蘭を育てて... ..	8

これからのたすけあい心

2024年度の介護報酬改定により、訪問介護の基本報酬が引き下げられました。それにより、小規模事業所の倒産が過去最多となったと報じられました。たすけあい心でも多分に洩れず大きな影響を受けています。そして昨年度の事業高を踏まえ、追い打ちがかり多難なスタートとなりました。

その様なことから、元ここのメンバーの方々から、またご利用者や会のメンバーからご寄付をいただきましたことに感謝申し上げます。3か月毎に運営会議を行いながら売上向上、経費節減について知恵を出し合い事業継続に努めて参りました。

自費サービスの利用料金について、6月にやむを得ず改定しました。メンバーにも投げかけてアンケートを取り、何度も話し合いを重ねご利用者様にもご理解をいただきました。会のメンバーからも協力と理解を得ながら、少しずつ事業高が戻ってきたところです。事業高を上げていくには、働く人材の確保が大事です。

メンバーを増やす努力をこれからも続けていきます。



1年間の労いを込めて手作りカレーとメンバーからのケーキをいただきながら、和やかなプレミアム定例会を行いました。メンバー同士が顔を合わせることで、会話も弾み元気が出ます。

昨年度は創立30周年の1年でもありました。次年度は、会としてもメンバー同士の交流を図り、忙しい中にも楽しみを持てる1年にしたいと思います。

「住み慣れた地域で助け合いながら住み続けられる街を!」と、設立当初の想いを引き継ぎながら、その想いを大切に、たすけあいの輪を広げてこれからも皆で力を合わせて頑張っていきたいと思います。

これからも港南たすけあい心をどうぞ宜しくお願い致します。

理事長 宮古 縁

プレミアム定例会

カレーパーティー

2024年12月21日(土)

久しぶりのプレミアム定例会&メンバーそろっての食事会。
感謝の思いを込めて理事会メンバー中心となって『手作りカレー』をふるまいました。
当日の様子をお楽しみください♪



おいしくなあれ!

じっくり煮込んだカレー。
愛情のスパイスたっぷり!
じゃがいもは利用者様からのご寄付です。

お話に華が咲きました。
笑顔があふれています。



研修後のお食事会



監査役員さんにも
出席いただきました。

いい笑顔でみんなそろって
ハイ、チーズ!!



みんな〜!

ジャンジャン
おかわりしてね〜



食後の手作りスイーツの
差し入れいただきました。

どれも絶品!
感謝感激



食事のあとはお楽しみじゃんけん大会!

勝ったら
景品ゲット!!

ふりかえり

短い期間でカレーの準備やお部屋のレイアウト替えは大変でしたが、皆さんに喜んでいただけて開催して良かった。のちに、『おいしかったわよ』とメンバーからの声掛けが嬉しいです。今後、災害時の炊きだしやイベント出店があればその経験が生かせます!

研修報告

2024年5月25日

非常時災害時対策

マニュアルに基づき救助対象利用者の住所確認を行う



2024年7月27日

認知症

講師 済生会南部病院
認知症看護認定看護師 永藤 真紀氏



2024年11月30日

おいしく食べて減塩習慣

講師 上大岡仁正クリニック
管理栄養士 川嶋 明美氏



その他の研修

看取りの介護

講師 アール・クラ横浜
終末期ケア上級専門士 生駒 希氏

片麻痺の方の更衣とオムツ介助

講師 齋藤 正子さん

口腔ケア

講師 小池 尚さん

あなたも私も社会資源

講師 板倉 和子さん

2024年6月29日

感染症及び食中毒

講師 アール・クラ横浜 斉藤 永一看護師



2024年9月28日

心臓病

講師 済生会南部病院
急性・重症患者看護専門看護師
河原崎 麻美氏



2024年12月21日

ハラスメント

介護現場におけるハラスメント体験を
マニュアルに基づいて話し合いました



新人会員紹介

佐々木 伸子

今年の9月から「心」に参加させていただきました佐々木伸子です。

定例会や研修会に何度か参加させていただき、とても充実した時間を実感しています。ワークに入りながら毎回むずかしさを感じ日々勉強だなと思っています。

「心」のヘルパーさん達と一緒に仕事ができる事が幸せに思っています。



神道 絵里子

一昨年の夏、体調を崩し5年勤めた高齢者グループホームを辞めました。その後は通院しながらゆっくりして、秋には3人目の孫が生まれ、娘宅に1か月程手伝いに行きました。

もう一度仕事がしたいと思い「たすけあい心」に問い合わせると、理事長さんがやさしく対応して下さい他のスタッフの方も皆、温かく迎えて下さいました。

今は、色々なお宅に伺い楽しくお仕事させて頂いています。今後もよろしくお願い致します。



小幡 宏子

65年間住み慣れた世田谷から、横浜市に住んでいる娘の近くに転居して、この秋で丸2年になり、少しずつ地理も分かってきました。これ迄の仕事はデイホームで十年余り週2回、調理をし、転居してからも、通っていました。

ところが、経営難で閉所となり、これが潮時だと思っていた半面、楽になった分、目標も緊張感もなくなりこれで良いのだろうかと思い始めていたところ、生活クラブの折り込チラシが目に残り、生協祭りで資料を頂き、その後事務所に伺いました。高齢の上、腰の病気もあり、どうなるかと心配でしたが、理事長さん始め事務所の方々はとても親切で、不安は消え、入会させて頂きました。

ところが最初の訪問で、腰の負担が大きくヘルパーとして働くのは無理だと実感し辞めさせて頂く事にしました。とても残念でしたが、体力の限界を思い知らされました。しかし暮れのある日、理事長さんから、私にでも出来る仕事があるからとお電話を頂き驚きました。辞めていたにも関わらず気に留めて下さっていた事が、大変有難く、とても嬉しくなりました。不安はありましたが、又、理事長さんの下で、働けることは幸せな事だと気持ちは決まり、再入会させて頂きました。お陰様で、温かな心のスタッフに支えられ、このような私でも、働かせて頂ける事に感謝の気持ちでいっぱいです。分からないことが多く、ご迷惑をお掛けしますが、どうぞ宜しくご指導の程お願い致します。



コラム

人生とは何ぞや

小池 尚

今年届いた年賀状の中に、昔働いていた歯科医院の先生より「五月に閉院」と一言かいてあった。ああそんなお年頃になられたんだ、と、先生のお顔がぶわあー!と浮かんできた。とにかく超人のような人だった。治療の腕には誇りを持ち、更なる勉強、沢山の趣味、子どもたちと遊ぶこと、お母様の介護。全てにおいて全力の人だった。

私の手際が悪いと烈火のごとく怒るが、楽しい時は笑い転げる。その先生が時々私たちに問かける言葉があった。「人生とは何ぞや」俺は常にそんな事を考えている。と。

「人生とは何ぞや」考えていると、自分という深い森の中で探し物をしている気分になる。いつか答えが出るだろうか。いつか先生にも聞いてみたい。

「答えはできましたか?」五月晴れの佳き日に、どうか賑やかに、穏やかに閉院されますように。



ご利用者さま作品紹介

● M.Sさま

子どもが大学生の時に時間が出来たので、近くのカルチャーセンターへ行ったらルーマニアンレースの先生の作品に魅了され習い始めて30年。

10年程休憩をされていてずっと気になっていたやりかけの作品があり、今回完成にたどりつけたそうです。

紅茶にケーキ…。
好きな本を読みながら
過ごすひと時。



背たけ以上のルームライト。
私もこんな素敵なライトほしいな。
飾れる部屋がないか…。



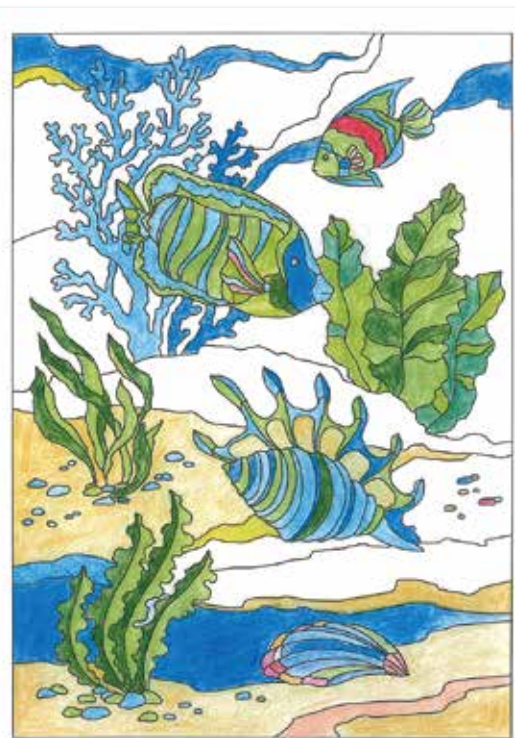
お家にこんな素敵なお部屋が
あったらいいな！
癒しの空間…仕事休みたくなるな、きっと。



● 廣澤 幸子様

塗り絵は心身がリラックスできてストレス発散や自律神経機能を調節するといわれています。

優しい色づかいで、細部まで丁寧に色を重ね合わせた素敵な作品は、ご本人のお人柄がそのまま表れています。



コラム



まむし 蝮の記憶

藤田 恵理

へびは脱皮を繰り返すので古くから再生・成長のシンボルとして縁起の良い動物とされています。子どものころ田舎の石垣をのぞくと石の奥を蛇が移動しているのを見ることがあった。田んぼの土手を歩くととぐろを巻いている蛇と目があって体が固まってしまったが蛇のほうもびっくりしただろう。祖母が脱皮した抜け殻は葉になるということで学校帰りに石垣をのぞいては戦利品を拾い集めていた。

確かに蛇は医学の象徴でもあり世界保健機構のマークになっている。若いころ職場にいたおじさんが蝮の生き血を飲むと言った。虚弱体質で具合が悪くなると山にナタを持って入り、蝮を捕まえ頭を落とすと盃をひっくり返した高台の量ほどの生き血が取れて、それを一気に飲むと体がよみがえるように力がわいたそうだ。納得した。

幼いころ喉が腫れて泣いていた時、祖母がこれであがいをしてごらんと小さなコップに琥珀色の液体を入れてきた。飲んでではだめ、うがいだけと言われガラガラペをした。なんとなく生臭かったが効き目あらたかで瞬時に痛みは解消。嘘ではない。

一升瓶に蝮と35度の焼酎をいれたまむし酒であった。その後何度もお世話になった。ある時父に連れられて早朝の市場に行った。まだ競りの始まる前で物珍しく見て回るとりんごや野菜の積みあがっている奥にまむし酒が3本並んでいた。こんなものも競りにかけられるのだと感心。まだ新しく焼酎は透明色で蝮の目は生きていた。

横浜に来て30余年、両親もいなくなった今、あの暗い土蔵の奥にあったまむし酒がどうなったか聞く人もいない。

港南たすけあい心の活動状況

	4月			5月			6月			7月		
	介	支	自	介	支	自	介	支	自	介	支	自
利用者数	47+34	22	15	46+33	26	14	48+31	26	12	45+32	29	13
活動時間	473	132	80	492	133	91	404.5	155.5	69	432	188.5	80
活動ワーカー数	29			28			28			26		

	8月			9月			10月			11月		
	介	支	自	介	支	自	介	支	自	介	支	自
利用者数	47+31	26	14	47+33	28	13	48+35	29	17	47+33	31	17
活動時間	345.5	150	67	350.5	177.5	56.5	405	220.5	84	383	189	92
活動ワーカー数	27			28			27			29		

	12月			1月		
	介	支	自	介	支	自
利用者数	48+35	30	18	51+35	28	17
活動時間	362	168.5	75	390.5	161.5	79
活動ワーカー数	28			28		



居宅介護支援利用者数（ケアマネ利用者数）（要介護人数 + 要支援人数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
52+39	52+41	61+32	60+33	50+48	48+50	56+50	53+53	53+53	74+31

登録ワーカー数 27名
 介護保険利用者 89名
 居宅介護支援利用者 106名
 障害者自立支援制度利用者 30名

（2025年1月31日現在）

介 介護保険利用（要介護 利用者）+（要支援 利用者）
 支 障害者支援 居宅介護 移動介護
 自 自費サービス

暑い頃に西日が当たらない風通しの良い置き場があるなら育ててみるのを
 お勧めします。

赤嶺弘子

白い大きな花、少し小さいピンクのもの、小さな鉢の赤い花を沢山つけるもの、ほとんどがコチヨウランです。コチヨウランは心の事務所からや、つながるクリニクさんの開院祝のものもあります。赤のデンドロビームに白いセロジネなど狭い所に無理やり並べています。南向きの二重窓が明るく気温もランに向いているようで毎年よく咲きます。四月の中頃に外廊下の窓格子に吊り下げます。四月が涼しいと、梅雨明けにもう一度咲くものもあり楽しみです。肥料は年に二回、水が少し多くても少なくとも大丈夫、ズボラな私が三十年以上育てています。

団地の窓際で
 ランを育てています。

蘭を育てて・・・

乙女心



匿名希望2名

賛助会員

ホームページアドレス：<http://www.tasukeaikokoro.com/>

この広報誌は赤い羽根共同募金の助成を受けて作られています



表紙絵：代永 良子様（ご利用者様）
 ボタニカルアート講師

制作：企業組合エコ・アド

